
此岸にて。

佐井原 景

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
此岸にて。

【Nコード】
N6416F

【作者名】
佐井原 景

【あらすじ】
和風掌編ホラー。こんな幻想が、貴方に訪れる日もあるかもしれません。

提燈を持たねばならぬ、と釘をさしてきたのは渡し守だった。そう言われても灯りの持ち合わせなどはない。ではどうすればいい、船に寄せぬということかと問えば、渡し守は当然とばかりに岸边を指した。

——花提燈を作ればいい。

群を成す曼珠沙華まんじゅしゃげを一瞥する。

——花が光るものか。

——光るとも、折ってみる。

促され、かがみこんで一輪を手折る。ぱきん、と瑞々しい感触がした。

——茎の中ほどを、皮を残して折る。花に向かって皮を少し剥ぐ。反対側を同じ様に折って、花に向かって皮を少し剥いで……その繰り返しだ。

渡し守に言われるがままに、花提燈を作る。途中何度か間違えて、茎と花とが分かれてしまった。そのたびに花を川に放り、新しい曼珠沙華を手折る。音もなく流れる水面には、紅い花がいくつも浮かんだ。草の汁に塗れた指が冷える。

——これは毒を持つ徒花あだばなだと聞いていた。手が腐って落ちるかもしれない。

——毒を持つのは根ばかりだ。その根でも、昔は食ったものだった。

——何故。

——飢饉を知らないか、幸せなことだ。

手を動かす傍らで、言葉を重ねる。渡し守はこちらを待っているらしかった。

蛇腹のようなその構造によつやく合点がゆき、拙いながら何とか小さな花提燈を作り上げる。幼子のころに戻ったようで、なにやら

嬉しくなつて手に提げてみると、冷えた風にゆらりと紅い花が揺れた。

——さあ、これでいいだろう。

勝ち誇つたように言つて、顔を上げる。

そこには川は無く、色づいた稻穂がこつべを垂れるばかりであつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6416f/>

此岸にて。

2011年1月4日15時28分発行